

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400383
法人名	テルウェル西日本株式会社
事業所名	グループホーム サルビア
所在地	愛媛県八幡浜市江戸岡1丁目2-9
自己評価作成日	平成24年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

穏やかな時間のなか、入居者が自分の思うようにあたりまえに生活できることを大切にし、入居者間で喜怒哀楽を感じあえることを大切にしている。また、感情を抑制することも共同生活で大切ではあるが、言いたいことも言える人間関係づくりを大切にしている。入居者と職員という一線も大切ではあるが、職員も家族として生活していることも大切にしている。
ゆっくりとした空間の中、入居者ひとり一人の時間が流れる生活づくりをお手伝いしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●玄関入り口の花壇には、居間の日よけになるようにゴーヤのカーテンが作られており、裏の畑には、きゅうりやミニトマト、なすび等の夏野菜が育っていた。職員が、利用者を誘って収穫や草引きをされている。敷物を敷いて、座って熱心に草引きをされる方もおられる。居間のテレビは、誰かが見ておられるようで、日中ほとんど点いており、又、気の合う方同士や職員とおしゃべりしたり、お手玉や広告紙でゴミ入れを折る等されている。カラオケを楽しまれることもある。居間から少し離れた廊下の一角にベンチが置かれてあり、気の合う方同士でおしゃべりされていた。
●「一緒に寝てほしい」と、希望する利用者の方には、ご本人が寝付くまで職員が手を握る等して、安心して眠れるように支援されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

GH サルビア

(ユニット名)

さくらんぼ

記入者(管理者)

氏名

大森 千代

評価完了日

24年 6月 25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ●「あたりまえ」という理念のもと、入居者が普通の生活・要求ができるように職員全員で耳を傾け、ケアを行っている。	
			(外部評価) 事業所は、「あたりまえ」という理念を掲げ、玄関やユニット入り口に掲示されている。3ヶ月毎に発行する「サルビア便り」にも、毎回理念を載せて、ご家族等にも理念を知っていただけるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ●もちつき大会は恒例になったものの、地域との交流は今ひとつである。しかし、ホームの事業で庭で実施できるものは実施、外を通られる人たちへPRも兼ね入居者の様子も見て理解して頂くチャンスだと思っている。 ●散歩時には、すれ違う人たちと会話をしたり挨拶を交わしている。顔見知りもでき、世間話も時間がある時にはする。	
			(外部評価) バーベキューや餅つきの行事や日々の散歩や日向ぼっこ等、事業所の駐車場を使用して活動され、地域の方達に事業所の所在や利用者の様子等を知ってもらえるように取り組まれている。1年半ほどの間、月2回公民館にて、事業所独自で「介護相談会」を実施しておられたが、具体的な相談がなく、しかたなく中止された。 管理者は、「地域の方に事業所のことを知っていただき、利用者地域の方が交流したり、地域の方が気軽に介護の相談に来てくださるような事業所にしたい」と考えておられる。事業所では、いろいろと工夫しながら地域との関係作りに取り組んでおられるところではあるが、地域とのつながりにはなかなか結びつかないようである。今後も、日々の中で地域に出かけていくような機会を積極的に作り、利用者の社会性等も活かして、地域の方とのつながり作りに工夫して取り組まれてほしい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ●23年度は当ホーム主催の研修会が開催できなかった。今年秋に地域住民も参加できる研修会を開催したいと考えている。 ●公民館にて夜間、介護相談を開催したが、実績はなかった(担当民生委員にも周知して頂いた)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議のメンバーはホームの現状を十分に理解して頂き且つ、適切な代弁して下さり当ホームの進むべき道、地域での役割を示唆して頂いている。 ●事例検討においては、職員では感じ得ない意見を頂いたりする。その意見を職員会で検討し、取り入れ可能であれば実践できるようにしている。 <p>(外部評価)</p> <p>会議には、家族会会長、以前訪問してくれていた介護相談員等に参加していただいている。又、地域のグループホームとは、お互いの会議に参加し合う関係を築いておられ、会議時、他グループホームの取り組み等も聞かせていただきながら、参加者と意見交換をされている。県外に住むご家族より、「日時を早めに教えてくれたら参加できる」との声があり、年度末に、今年度の日程や会議の内容を決められた。管理者は、地域のいろいろな方に会議に参加していただきたいと考えておられ、まずは、利用者に直接かかわりのある「訪問美容に来てくださっている方に声かけしたい」と話しておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市の担当者にも運営推進会議のメンバーに加わって頂き助言を頂いている。また、市主催のGH連絡推進会議にも出席し助言を頂いている。 ●市立病院の医療連携室とは、当ホームの入居者が入院された場合には早期退院に向けての情報交換等を行っている。 ●介護保険審査会にも参加し職員との情報交換も行っている。 <p>(外部評価)</p> <p>市の担当者は、運営推進会議に参加して下さったり、毎月、「さわやか相談員」の訪問がある。市の社会福祉協議会の協力を得て、身寄りのない利用者の方を成年後見制度利用につなげた事例がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身体拘束は行わないという介護を職員に徹底している。しかし、入居者に危険が伴う場合は考慮するが、現時点までには拘束は行っていない。 <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、玄関は網戸になっていた。「一人で外出したい」気持ちのある利用者がお一人で出かけていく時には、職員は距離をとって後から付いて行くようにされている。万が一、職員が気付かず利用者一人で出かけ、行方不明になった場合のために、ご本人の写真や特徴等を載せた利用者全員の「搜索カード」を作って備えておられる。写真は、定期的に更新されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ●身体拘束と同じ虐待もあってはならないと考えている。そのことについては、職員に『人としての在り方』から始まり、『良識ある社会人』として、日々の会話の中や職員会の雑談の中でも話し合いをしたり、助言をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ●現在当ホームに1名の成年後見制度利用者がおり、今後も利用者の権利擁護のため積極的に活用を考えている。23年度は研修会には管理者の参加しかできなかったため、研修会報告で終わったが、今後は研修会等にも職員が参加し理解を深めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ●定められた事はきっちり行っている。入居前に必ず訪問し、身体状況を把握すると共にその時に契約に関する説明を行う。説明に時間のかかるものについては、入居時まで熟読して頂き、入居時に不明な点については、再度確認し説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ●家族会や家族交流会等で情報収集を行い、入居者の対応等改善できることは職員と話をし改善できるようにしている。また、さわやか相談員さんからの意見も汲み取るようにしている。推進会議の場で事例検討等入居者の話をした場合には助言を頂き、改善できるように心がけている。 (外部評価) 行事や日常の様子がわかる写真を載せた「サルビア便り」を3ヶ月毎に発行されている。又、利用者個別に、ご本人の写真にコメントを載せたお便りを作っておられ、毎月ご家族へ送付して報告されている。5月に行なった家族会時の後には、「家族交流会」として、駐車場でバーベキューを楽しみながら、ご家族同士でおしゃべりしたり、職員とも気軽に話せるように雰囲気作りに取り組まれた。	現在、ご家族からの意見や要望は少なめでもあり、ご家族は事業所に対して「預かってもらっている」という思いがあり、「遠慮されている」のではないかと感じておられる。利用する側であるご家族の意見や気付きは、事業所のケアの質を良くする取り組みのきっかけにもなり、今後さらに、言うことをためらうご家族の心情を察して、働きかけの工夫を重ね、ご家族の声を集めていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>●管理者は職員会やミーティング・日常会話等から職員の意見を聞き、支店担当者及び担当課長・部長に報告をおこなっている。10月施設長兼務になり職員募集をかけた時にも募集がなかなかこないため、支店部長を先頭に支店職員の方々が職員募集のポスティングを八幡浜市内全域で行って下さった。</p> <p>(外部評価)</p> <p>休止されていた内部研修を再開されている。各ユニット2名ずつ研修担当職員を決め、「どんな勉強をしたいか」話し合っ、それぞれに職員が講師となって毎月行っておられる。体制上のことで、職員はユニット間で異動することもあるが、職員は他ユニットの利用者や職員にも会いに行き、事業所全体の把握に努めておられる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>●担当職員は月1回以上は松山より来所し、また何かあるごとには部長・課長が来所し相談にのって頂き対応してもらっている。 ●資格取得者には資格手当の支給があり、また、資格をとろうとするものにおいては、受験日は勤務とし、資格取得すれば受験費用が支給されるようになった。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>●職員一人一人のレベル把握を行い研修会の参加を予定していたが、23年度は職員体制の調整ができず、研修会参加はごくわずかな職員だけで終わってしまった。24年度においては、月1回施設内での勉強会を開催し、また、管理者を始めとし、たくさんの職員が研修に参加することにより、知識を深め介護力アップへとつなげたい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>●他2GHのGH連絡協議会にも出席させて頂いている。管理者だけが出席するのではなく、介護主任を始めとしテーマにあわせた職員の出席も行い交流やネットワークづくりを行っている。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>●入居前には状況把握も兼ね必ず訪問させて頂き、顔を覚えて頂くようにしている。できる限り、入居前までには、ホームの見学にきて頂き、ホームの雰囲気を感じて頂くようにしている。信頼関係においては、入居時から構築できるように職員全体で取り組んでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ●入居前には必ず訪問し、家族の要望をくみ取ることができるようにしている。信頼関係づくりは、入居者との信頼関係も大切であるが、家族は入居するしないにかかわらず相談時から信頼関係を構築することができるよう、安心してホームで生活を託すことができるように相談援助ができるように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ●初回の相談時に本人・家族のニーズを見極める事は困難ではあるが、悩みを聞くことにより今利用できるサービス・支援と一緒に考えると共に、入居するしないに関わらず、いつでも相談できる関係作りを考え対応を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ●入居者と一緒に生活をしているという事を念頭におき、共に感じ共に涙することができる関係づくりに心がけている。家族になるのは難しいが、一緒に生活することで、家族より一緒にいる時間が長い馴染みの関係ができていると思われる。ある家族からは職員が読んでいる名前の方が反応がよいと言って頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ●上記と同様に家族の立場を尊敬しつつも、家族以上の馴染みの関係が構築できるように努めている。そのことにより家族が安心してホームでの生活に頼ることができればと考えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ●知人・近所の方が面会に来て下さった時には、自室でゆっくりと面談して頂いたり、許せるなら職員も交えてお茶の時間を持ち、楽しい時間を過ごすことができるように努めている。帰際には必ず再来をお願いしている。また、写真撮影を行い、毎月のお便りに配信している。 (外部評価) 県外に住むご家族が、お盆やお正月等に帰省された際、ご本人の居室に宿泊される方もある。又、ご家族とお墓参りに出かけたり、ご自宅で過ごされる方もある。現在、利用者は全員、事業所から離れた地域でこれまで生活しておられた方であり、それぞれの馴染みの人や場とのつながりを支援することには難しさもあるようだ。	利用者一人ひとりの「ありのまま」を支援していくことを目指している事業所でもあり、個々が、これまで大切にしてきた人や思い出の場所、懐かしい場所等を具体的に探り、支援につなげていかれてほしい。さらに、事業所が所在する地域と利用者のつながり作りに取り組み、利用者それぞれに新たに馴染みの人や場を作っていけるような取り組みもすすめてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ●入居者同士の性格やその時の状態を考慮し、必要により入居者同士の会話の仲介を行ったり、お茶の時間には職員も一緒にテーブルについて話を楽しんでいる。トラブルの多い入居者においては、双方を傷つけることなくフォローすることができるように援助をおこなっているが、苦慮するところである。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ●退去されたご家族に出会った時には、話をしたり一緒に生活された入居者を気にして下さったりと、馴染みの関係が続くことができるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ●日々の生活の中で、把握に努めている。一人の時間を大切にしたい入居者には自室での時間を楽しんで頂いている。また、職員の時間の許せる限り、一緒に散歩・買い物・ドライブと出掛けている。また、どうしたらよいかも、カースカンファレンスで検討を行っている。 (外部評価) 入浴等で職員が利用者1対1になる時や、食後等の「ゆとりのある時間」に、利用者のお話をじっくり聞いておられる。アセスメントシートは、「本人・家族のニーズ」や生活歴等が記されており、年に1度更新するようになっている。	ご本人のこれまでのことや思い、暮らし方の希望や意向について探り、情報を蓄積し、さらにその人らしい「ありのまま」の暮らしを続けるための支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ●入居者本人からの会話の中や家族からの情報を得ることができるように常に心がけているも、重度の方や家族が遠方の方は難しい所もある。また、職員が把握しても共有という所が難しく勉強していく必要がある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ●入居者本人からの会話の中や家族からの情報を得ることができるように常に心がけているも、重度の方や家族が遠方の方は難しい所もある。しかし、職員が把握している分で入居者の一人一人の過ごし方を大切にしようという心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			●職員全体で取り組んでいるが、担当職員が主でケースカンファレンスを開催し意見交換を行っている。面会時には家族の思いも把握を行い、介護計画へとつなげている。	
			(外部評価)	
			前回の外部評価の後、利用者個々の担当職員が認定調査票を活用してアセスメントを実施することを試みておられる。3ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画の見直しをされている。「一緒に寝てほしい」と、希望する利用者の方には、ご本人が寝付くまで職員が手を握る等して、安心して眠れるように支援されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			●ケース記録用紙は1日毎に記録する形式をとっている。上部に援助目標をプリントし、達成状況を記している。また、月間記録には評価に生かす事ができるようにまとめを行っている。 ●職員が休みの日は日誌や変化のあった入居者は記録用紙で確認し、統一事項は申し送りノートで確認を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			●入居者の家族が宿泊されたり、一緒に食事をしたり、また介助のいる入居者は入浴の様子を見て頂いたり、できるだけ家族の要望に応じている。 ●入居者の状況に応じて、通院等の支援を行いホームでできる対応は援助することができるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			●月1回さわやか相談員が訪問し、ホームの素顔を視て頂いている。また、運営推進会議のメンバーである民生委員の方々も家族交流会に参加して頂けるように声掛けを行っている。 ●福祉サービスの利用→高齢者外出支援事業	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本人・家族が希望する主治医となっている。2か所の医療機関から月2～3回往診を受けている。それ以外の定期的受診は家族にお願いしている。 ●本人が必要とする医療においては主治医と相談し紹介をして頂いている(退院時褥瘡のあった入居者には皮膚科Drの往診を依頼して下さった。また、あきらかに主治医が対応できない疾患においては、受診後の報告の了承も頂いている) <p>(外部評価)</p> <p>利用開始時、往診して下さる協力医療機関もあることを情報提供して、利用者、ご家族が主治医を決められる。他の医療機関を受診される場合は、ご家族が付き添われている。眼科は、事業所の近くにあり、職員が同行されている。歯科受診が必要な方については、訪問診療を受けることができる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護職員を配置しているので、24時間連絡体制がとれ医療面の相談・助言の対応ができるようになってきている。また、24年度看護職員が管理者兼務となったので看護職員のパート採用も募集している。 ●市立HP医療連携室とは気軽に相談できる関係を築いている。 ●入居者主治医の看護師とは情報交換や相談ができるように努めている。 	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●入院時には管理者や担当職員を主にお見舞いに行き、本人の観察を行うと共に、当ホームの受け入れ体制等を医師や医療スタッフと話し、早期退院に向けての調整を行っている。 	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当ホームの方針を家族会を通じて説明を行い終末期ケアの意思確認を行っている。協力医をはじめ往診対応して頂いている医療機関とも当ホームの実情を理解して頂いているため協力的に対応して下さっている。 ●今の所終末期ケアを行った事例はない。 ●23年度末、1家族と終末期ケアについて話し合いを行った。 <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の希望もあり、事業所で看取り支援を行った際には、ご家族と主治医、管理者で段階ごとに話し合いながら看取られた。最期の日は、ご本人の大好きな甘酒をシャーベットにして召し上がった。利用契約時より、「事業所で最期まで過ごしたい」と希望する方もおられるが、「再度の確認」のため、5月の家族会時には、「ご家族の希望・医療が必要でない場合・ご家族の協力が必要なこと」を伝え、事業所でどのようなことができるか説明され、希望者には同意書を提出いただいた。ご家族からは、看取り支援について、「ありがたい」「協力できるところは協力する」という声があったようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ●マニュアルを作成しているが、なかなか定期的には実施できていないのが現状である。 ●年2回の防災訓練のうち1回は応急手当等の対応を消防職員より指導して頂いている。 ●毎年防火管理講習会に参加しその中でも応急対応の訓練をしている(23年度1名)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ●火災時は消防署から2分の立地条件のため、「死亡者を出さない」を教訓に毎年避難訓練を実施し、職員に徹底している。 ●23年度は9/21に消防署を交え入居者も参加し避難訓練を実施し、その後東北大震災の講和を受講した。3/23には、ホーム内で他のGHの避難訓練に参加した職員より話を聞き、防災担当者が震災時の話を行った。 (外部評価) 年に1度、消防署の協力のもと、避難訓練を行っておられる。7月末に実施する訓練は、地震の後、津波が押し寄せることを想定して、フェンス越しにある法人のビルに避難する訓練を計画されている。以前は、一度車道に出ないとビルに行けなかったが、東日本大震災後、フェンスを一部開放し、扉を付けて、駐車場から直接ビルに行くことができるようにされた。今後は、防空頭巾を作ることも予定されている。事業所周辺は高齢化が進み、又、転勤族の方が多く、いざという時の協力体制作りが難しい環境のようだが、事業所が地域のためにできること等も発信しながら、相互の協力体制作りを考えてみられてはどうだろうか。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ●常に入居者の立場に立ち、親しみの持った口調で声掛けを行い、丁寧な対応ができるように心がけている。個人的な相談等については自室や事務所等を利用し他の入居者に気を使われることない場所で行っている。 ●本社の方からも、毎年個人情報保護においては資料が届き職員に職員会で通達している。また、日々、漏えいがないように注意するよう心がけている。 (外部評価) 職員は、目の不自由な利用者の方に声かけをする時には、まず、「○○です」と自分の名前を伝えてから、話しかけるようにされている。調査訪問時、職員が、「○○です」と名前を伝えると、利用者は、「ああ○○さん」と返され、安心したように会話を始められた。職員の気になる声かけを耳にした時には、「自分がその人の立場に立ったらどうだろう」「そんな風に言われたらどう思うか」と考えて、職員間で話し合うようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ●1:1の会話ができるように心がけている。入居者の思いや希望がくみ取ることができ、満足して頂ける援助が行えるように努めている。また、満足して頂けなくても、せめて、納得して頂けるように日頃から信頼関係を築き、誠心誠意対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ●入居者のペースを大切に援助を行っている。食事・入浴・入眠時間等利用者のその日の気分に合わせている。何日も入浴されなくても、無理強いせず、本人から入浴する気持ちになるように援助を行う。食事自己摂取できる方は時間がかかっても、食べて頂く。できる限り、出来る事は本人にして頂き、職員は見守りを行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ●自分で選ぶことができる人は少ない。季節はずれの服装をしている場合は、職員と一緒に選ぶようにしている。 ●出張美容は月1回来ており、利用するもしないも、本人の意思決定をして頂く。毛染も利用される入居者さんもおいで。 ●化粧をされる入居者もおいで。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ●食べて頂くことを優先し、その人のペースで時間がかかっても食べて頂く。 ●生で食べる物以外は入居者にできる下ごしらえはして頂く。 ●職員も同じテーブルで食べながら、会話を楽しんだり、出来たおかずの評価をしたりして、楽しんでいる。 ●お誕生会には、誕生者の食べたい物で、お祝いをするようにしている。 (外部評価) 基本的に、昼・夕食は、決まった献立で宅配業者から食材が届き調理されている。事業所でアレンジをすることもある。調査訪問時、いなりずしであったが、じゃこ天を入れたり、けずりかまぼこで彩りよくする等工夫をされていた。朝食と週2回の昼食は、ユニット毎に利用者に希望を聞いたり、好みを考慮して職員が献立を立て、調理されている。利用者は、野菜を切る等されたり、調査訪問時には、配膳や下膳をされる利用者の姿が見られた。誕生会は、ご本人の希望を聞いて、食べたい物でお祝いをされている。利用者からは、「美味しいものが多い」という希望が多く、例えば、「おすしと炊き込みご飯、どちらがいいですか」と、メニューを提示して、ご自分で決められるように支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ●基本的に食べて頂くことを優先している。食事量の少ない人には、食べ残しがあると気の毒そうにされるので、食べれる量で対応を行っている。また、好き嫌いのある人には、嫌いな物においては少しにし、食べて頂くように声掛けを行う。 ●水分摂取においても、定時の他に入居者の希望で飲んで頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ●毎食後口腔ケアの声かけを行っている。自分のできる人は拒否がない限りは実施している。 ●歯科治療の必要な人は協力医の往診で対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●尿意・便意の曖昧な方には、排泄パターンを把握し、誘導する事で排泄を促している。 ●睡眠時尿もれのある人は、睡眠時のみリハビリパンツにて対応している。 ●入所当初は自立でも、心身機能低下でリハビリパンツや尿とりパットを利用する入居者が増えてはいるが、出来る限りトイレでの排泄を促している。 <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、「できるだけリハビリパンツを使わない」ようにして、トイレでの排泄を支援されている。昼間は、布パンツにパッドを使用されている方も少なくない。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●なかなか、野菜を食べてくれない人には便秘予防という事で声掛けを行い少しでも食べて頂くようにしている。 ●水分補給・散歩等を心がけてはいるが、便秘が続く入居者においては間隔をみては、緩下剤を利用している。 	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎日入浴して頂くことを基本としているが、介助が必要な人においては、隔日には入浴ができるように対応している。 ●入居者同士で、入浴の順番を決めて頂く時もある。 ●ご自分で入浴時下着を洗濯される入居者もいる。 <p>(外部評価)</p> <p>職員が見守り入浴される方は、希望をお聞きして毎日入浴できるよう支援されている。職員2名で介助が必要な方は、1日おきに入浴できるよう支援されている。脱衣所には、ヘアブラシと爪切りが個別に用意されてあった。又、肌の敏感な方には、弱酸性のボディソープを使っていただくようにされている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●19時にホットミルクの水分補給後睡眠に入るが、それぞれのペースでホールでTVを見られてから各自自室に帰られる。楽しいTVがあれば遅くまでTVを見られ、自分のペースで自室に帰られる。 ●なるべく日中は活動して頂き、生活のリズムを整えるようにしている。 	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ●ケース記録に薬の効能書きを閉じ、変更があった時には申し送りを行い、申し送りノートにも記録し職員全員が把握できるようにしている。 ●誤薬防止のために必ず日付と一つの薬かを確認し手渡しを行い飲み込みまで確認している。自分で服薬できない人には、職員が口腔内に入れ飲み込みを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ●閉ざされた空間のなか、役割、楽しみを見つけることは難しが、入居者一人一人のできる事楽しみを見つけ、援助することができるようにしている。気分転換においては、カラオケをかけたたり、散歩や買い物・ドライブ等職員も努力はしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ●家族が面会に来られた時には一緒に外出され、食事やお墓参りに行かれる。 ●年2回はマイクリバスで遠出を行っている。 ●できる限り散歩に出掛け、気分転換を行っている。買い物も希望があれば一緒に近くのスーパーに出掛けている。 (外部評価) 年に2回、マイクロバスを利用して、ほぼ全員の利用者で外出をされている。4月には、市外へイチゴ狩りに出かけられた。日常的には、歩ける方は近くのスーパーやドラッグストアへ食材やおやつを買いに職員と出かけておられる。歩いて外出することが難しい方は、職員と車椅子で近くの川の鯉を見に行かれたり、事業所の駐車場で日向ぼっこされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ●自分の財布を持たれている方もおいで。買い物に行った時には、支払いのできる入居者には自分で支払いをして頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ●手紙を書かれる人はいない。しかし、手紙が来た時にはお礼の電話をかける入居者もおいで。 ●さわやか相談員の提案で年賀状の取り組みもしたが、何人かは書くという事で準備もしたが、最終的には書かれなかった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●手作りの暖簾や壁掛け、またホールのボードには毎月の写真を貼って楽しんで頂いている。 ●家族さんが、花を持ってきてくださるので、それを生け季節を味わっている。 ●夏にはゴーヤを植え目と食を楽しんでいる。 <p>(外部評価)</p> <p>玄関入り口の花壇には、居間の日よけになるようにゴーヤのカーテンが作られており、裏の畑には、きゅうりやミニトマト、なすび等の夏野菜が育っていた。職員が、利用者を誘って収穫や草引きをされている。敷物を敷いて、座って熱心に草引きをされる方もおられる。居間のテレビは、誰かが見ておられるようで、日中ほとんど点いており、又、気の合う方同士や職員とおしゃべりしたり、お手玉や広告紙でゴミ入れを折る等されている。カラオケを楽しまれることもある。居間から少し離れた廊下の一角にベンチが置かれてあり、気の合う方同士でおしゃべりされていた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ホールにはソファを置き、入居者がゆっくりと過ごせる場所を確保している。また、のんびりしたい時には廊下のベンチで過ごす入居者もいる。 ●3月に入居された方はソファの席で先入感があり苦慮している。 ●気の合った入居者同士ベンチや自室で話をして過ごされる。 	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●できる限り使い慣れた物をお願いしているが、それが裏目に出る場合もある。(入居したこと自体理解されていない場合) ●仏壇やTV・椅子等がある入居者もおいで。 <p>(外部評価)</p> <p>仏壇を持ち込まれている方や、昔ながらの筆筒を持って来られている方がいる。ご家族の写真を飾られたり、テレビを置かれている方もあった。居室は、場所によっては、日差しのきつい部屋があり、カーテンを引くことで対応されている。居室の掃除をご本人がされる方もある。又、モップかけはご本人、掃除機は職員がかける等、担当して一緒に掃除をされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●十分なアセスメントを行い入居者を把握したうえで、どの入居者にも安全な環境を提供できるように心がけているが、A氏には安全でもB氏には危険な環境になり得ることを理解し援助を行っている。そのため、安全には十分注意を払うが、全ての入居者に安全な環境づくりは困難を極める。 ●12月に全盲でADL自立の方が入居し職員一同苦慮している。 	